

①訃報 平成 26 年 9 月 3 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

18 文 1	寺田 信	平成 26 年 6 月 24 日	東大阪市 (命日訂正)
19 理 甲 3	廣瀬 恪二	平成 26 年 9 月 18 日	横浜市 (ご遺族 富永様)
21 理 1	足立 幹雄	平成 24 年 10 月 23 日	豊中市
21 理 1	井上 龍介	平成 26 年 7 月 3 日	吹田市

②住居変更 連絡なし

③午餐会・懇話会

* 第 5 回浪高七日会 (通算第 515 回午餐会) 26 年 9 月 8 日 (月) 正午～13 時 15 分
於 中央電気倶楽部 3 F 大食堂

出席者 17 理 甲 1 栗野正之・17 理 甲 2 松山敏彦・18 理 甲 2 宇津敏勝・理 乙 橋田進
20 文 乙 城野伊一郎・理 2 鶴岡誠・21 文 甲 1 額川勉二・真銅孝三・文 甲 2 露口佳彦
21 文 乙 富田三郎・村田正孝・理 1 小谷剛造・理 2 武田晃世・前田泰敬・理 4 川島康生
22 理 1 長澤弘一郎・理 2 松浦實・三島佑一・理 3 井上達明・理 4 大路清嗣
事務局 阪田訓子 以上 21 名

■次回は**10月7日(火)**開催です。

④各地寮歌祭

* 復活第 10 回東海学士会寮歌祭 26 年 8 月 23 日 (土) 14 時～18 時

於 名古屋市錦の国際ホテル 会員・家族・来賓等約 500 名が参加
参加者 19 理 甲 1 津田泰男・渡辺祐吉・同節 以上 3 名
今年も 20 理 2 内藤三郎が自社の醸造酒を寄付された。
「浪速の友に」の斉唱は津田のリードで浪高勢 3 名の他、甲南・森田、高知・薄木・
八高・伊藤、六高・景山の諸氏が助勢参加された。

⑤支部だより

* 阪南支部二木会

・第 361 回 26 年 9 月 11 日 (木) 13 時～14 時 30 分 於 がんこ岸和田五風荘店
出席者 18 理 甲 4 高岸宗吾・20 文 乙 城野伊一郎・20 理 1 大塚穎三・理 2 鶴岡誠
21 理 2 武田晃世・6 文 甲 遺岩根正尚 以上 6 名
五風荘は岸和田城城主岡部公のお茶屋跡に岸和田の財閥・寺田利吉氏が昭和 4 年から
10 年かけて造られた邸宅で、三つの茶室と回遊式庭園があり、食後の散策が楽しめる。
帰途岸和田駅前喫茶フジヤに寄り、来年 9 月のだんじり祭の見物席を予約した。

⑥同期同級交歓

* 21 会 (21 回同期会) 第 95 回三木会 26 年 9 月 18 日 (木) 正午～14 時

於 大阪第一ホテル 6 F ランスロット
従前クラス順に持ち回りで話題提供して来たが 7 クラスで 13 周したので今回から真銅
世話人代表の司会により 10 月実施の旅行会打合せと時事問題など談論風発方式にした。
出席者 文 甲 1 額川勉二・真銅孝三・文 甲 2 茅野健・田中昂 (東京)・文 乙 富田三郎
村田正孝・理 1 神山達生・小谷剛造・山田茂樹・理 2 島隆夫・武田晃世・前田泰敬
理 3 後藤業明・竹原登・理 4 川島康生・中原充雄・西村順三・受付阪田訓子 以上 18 名

⑦運動部・同好会だより 報告なし

追 慕

林 直入さんを偲ぶ (17 理乙 26 年 7 月 13 日逝去)

22 文甲 1 井上浩一郎

林さん、直入というのは、祖父から継いだという俳号で、本名は隆夫です。

大正 14 年お生まれ、旧制浪速高等学校から東京大学農学部に進まれ、卒業後は、吉原製油に勤務され、その頃俳句に手を染められたと聞いております。高浜年尾先生の選を受けられるようになり、昭和 34 年頃からホトトギスに投句されるようになりました。

年尾先生没後は一貫して稲畑汀子先生に師事してをられました。

昭和 38 年から後藤夜半主宰の結社・諷詠に入られ、また昭和 43 年からは、下村非文主宰の結社・山茶花に加盟され、現在の三村純也主宰に至るまで、積極的な活動を行って来られました。

また一方学士会員の句会である関西草樹会や浪高俳句会、これは現在、大阪大学卒業生を主体とする待兼山俳句会に移行しておりますが、こういった学校関係の句会を育てられ、新人をよく指導して俳句の裾野を広げる、そういうことに多大のご功績があったと思います。

直入さんは、若者の育成に取り組まれ、熱心に指導されて来たのでありますが、また、酒を共にして談論風発の中、自ずと蒙を開くということもしばしばであり、私などもその恩恵を受けた一人であります。

まことに俳句と共に生き、人を愛し、酒を愛した心豊かな人生でありました。

突然のお別れとなりましたが、直入さんのお人柄とご教導は、後進の者たちのよき思い出となり、心の光として残るものであろうことを信じるものであります。

林直入様 弔句

酒ありて虹たつごとく語られし
安らかな御顔で逝かれ梅雨晴れ間
走馬燈待兼山の偉業かな
斑猫に道教えられ登校す
秋句会此处と一言直ぐ手配
待兼の大兄偲ぶ花はちす
船渡御の大阪締め師を偲ぶ
俱会一处涼しき句会待たれませ
師と仰ぐ巨星はかなく流れけり

井上浩一郎 (22 文甲 1)
片岡京子 (18 理甲 1 片岡和雄遺族)
齋藤義雄 (17 理乙)
佐伯箕川 (17 文 1 佐伯秀穂)
阪本ゆたか (16 文 1 阪本穰)
田中嵐耕 (22 文甲 1 田中豊造)
鶴岡言成 (20 理 2 鶴岡誠)
東野太美子 (21 理 2 東野一彌遺族)
三宅洛艸 (12 理甲 三宅敏夫)